メールマガジン「ガゼッタ」 まとめ（26）

第 126 号～第 130 号（2016 年 2 月 15 日～3 月 25 日配信）

配信した「ガゼッタ」No.126-130 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ガゼッタ第 126 号◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 126 号をお届けします。
本号は、「マウロ・ビゴンゼッティ振付のバレエ《ROSSINI CARDS》！」、「『ロッシニアーナ』第 36 号の目次と内容の紹介」をお届けします。
なお、ロッシーニ図像学の頁に「ロッシーニの写真名刺(カルジャ撮影、1861-62 年頃)」、「カルジャ撮影の写真に基づくロッシーニの肖像(『家族週報』パリ、1864 年 2 月 13 日号)」、「アンドレ・ジルによるロッシーニのカリカチュア(『ラ・リュンヌ』パリ、1867 年 7 月 6 日号)」の PDF を新規掲載し、ロッシーニ作品解説に掲載済みの《アルミーダ》作品解説を増補改訂版 PDF と差し換えました（2 月 15 日アップ）。
次回例会（2 月 28 日。講師：井内美香）のご案内はこちら→ http://societarossiniana.jp/meeting.html

▼マウロ・ビゴンゼッティ振付のバレエ《ROSSINI CARDS》！▼

去る 2 月 7 日、ジュネーブ在住の会員、角岡さんから、「今年のローザンヌ・バレエのコンテンポラリー・バレエ部門の曲にロッシーニ「弦楽ソナタ第 2 番（第 2 楽章）が使われていました。次のサイトに各課題バレエの模範演技と振り付けのレッスンの様子が見られます」とのメールをいただきました。
http://www.prixdelausanne.org/competition/2016-music-and-videos/

「模範演技をしているバーゼルのダンサーは日本人」とのことで早速見てみましたが、その流れで興味を持ったのが、課題に採用されたロッシーニの音楽によるコンテンポラリー・バレエ《ROSSINI CARDS》です。
作者は 1960 年ローマ生まれのバレエ・ダンサー／振付師マウロ・ビゴンゼッティ（Mauro Bigonzetti）。《Rossini Cards》と題されたこの作品は、2004 年 1 月 27 日モデナのテアトロ・コムナーレで世界初演され、上演時間が約 52 分と判りました。2009 年にアメリカ初演もされているので動画を探したら、2013 年 1 月 19 日モントリオール・バレエ・ジャズ・フェスティヴァルの映像が冒頭から約 19 分アップされていました（下記）。
さっそく見ると、ピアノ独奏の「柳の歌」で始まり、14 人のダンサーによる《チェネレントラ》六重唱に合わせた群舞、美しいピアノ曲による裸の男女の絡み、《弦楽ソナタ》第 2 番第 2 楽章によるソロが続きます（動画はその途中で切れています）。
全ての音楽がロッシーニかどうかは不明ですが、なかなか見ごたえがありますので、ご覧ください。↓
https://www.youtube.com/watch?v=HaALZBVGkYM

▼『ロッシニアーナ』第 36 号の目次と内容の紹介▼

日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』第 36 号、発行が予定より遅れましたが、早ければ今月中に会員の皆さまのお手元に届くものと思います。前号（第 35 号）同様Ｂ５版 160 頁、書籍 1 冊分の情報が詰まっていますので目次を転記し、内容を簡単に紹介しておきます（原語のアクサンは配信時に文字化けするので削除）。

◎日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』第 36 号（ROSSINIANA N.36.Anno XX, Dicembre 2015）
註：2015 年度分の紀要ゆえ欧語表示は前記ですが、日本語の奥付は「2016 年 2 月 20 日発行」です。

・久保 歩：エティエンヌ・ド・ジュイ『フランス・オペラについての考察』
　── Etienne de Jouy, Essai sur l'opera francais（1826）に関する研究　1-14 頁
・水谷 彰良：《セビーリャの理髪師》初演失敗の真実
　── 証言と逸話、反響と流布の研究　15-37 頁
・永倉 千夏子：マヌエル・ガルシア 1 世の《声楽練習教本》譜例分析
　── ガルシア・ファミリーの声の育成・技法習得システムを考える上で　38-61 頁
・水谷 彰良：ロッシーニ全作品事典（31）《幸せな間違い》　62-69 頁
・水谷 彰良：ロッシーニ全作品事典（32）《ブルグントのアデライデ》　70-76 頁
・水谷 彰良：ロッシーニ全作品事典（33）《ゼルミーラ》　77-86 頁
・柳川 文雄：2015 年（平成 27 年）日本におけるロッシーニ作品の主な上演記録　87-95 頁
・石田 康博：ロッシーニ・ディスコグラフィ
　── 1《デメートリオとポリービオ》から 16《トルヴァルドとドルリスカ》まで　96-129 頁
・水谷 彰良：《セビーリャの理髪師》レッスンの場の差し替えアリア

―― 楽譜複製（3）パーエル《ゴンドレッタのブロンド娘による変奏曲》 130-134 頁
―― 楽譜複製（4）フンメル《ティロル風アリア、変奏付き》のアルボーニ・ヴァージョン　135-139 頁
・水谷 彰良：2015 年のロッシーニ音楽祭レポート　140-145 頁
・日本ロッシーニ協会演奏会 2015「ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で」プログラム　146-152 頁
・【ロッシーニ通信】（紀要版）・新刊楽譜 ・新刊文献 ・CD 新譜 ・DVD 新譜 ほか　153-160 頁

久保歩さんの論文は、2013 年にロンドン大学キングズカレッジに提出した博士論文「The Librettos of Etienne de Jouy (1807-1829): A Difficult Career During the Napoleonic and Restoration Eras」第 3 章の日本語訳です。ロッシーニのフランス・オペラ台本の作家でもあるジュイの劇作理念や議論が詳述され、大変勉強になります。

筆者の論考は、《セビーリャの理髪師》初演が失敗から成功に転じた事実が同時代の証言や逸話でどう語られたかを、初演から約 50 年間の新聞、雑誌、ロッシーニ伝を時系列で検証したもの。後世の研究者が第三者の作り話と一蹴した「猫騒動」の逸話が、ロッシーニ自身によって最初に語られた話であることも明らかにしました。

永倉千夏子さんの論文は、前号掲載の《パリ音楽院の声楽メソッド》（1804 年）に続いてマヌエル・ガルシア 1 世の《声楽練習教本》（1824 年頃）を取り上げ、多数の譜例を掲げてそのメソッドを分析しています。1772 年の《イタリアのソルフェージュ》から約半世紀間の、近代ベルカント教本の歩みを理解する上でも貴重な論考です。

柳川文雄さんによる 2015 年のロッシーニ上演記録は、日本全国の上演をくまなく調べ、出典を明示して将来的なデータベースの確かな基礎となす労作です。

今回あっと驚くのが、石田康博さんの「ロッシーニ・ディスコグラフィ」です。ロッシーニ財団紀要のディスコグラフィも参考にしつつ独自にデータを網羅した労作で、ぎっしり詰め込んでも《セビーリャの理髪師》までで 54 頁になることから、今回は一つ前の《トルヴァルドとドルリスカ》まで 34 頁分の掲載としました。

他の文章は「ロッシーニ全作品事典」の連載 3 本、《セビーリャの理髪師》レッスンの場の差し替えアリア 2 種の楽譜複製、HP に掲載済みの 2015 年ロッシーニ音楽祭レポートと 2015 年演奏会プログラムの再録です。楽譜複製は頁数節約のため判読できませんが、後日 HP に拡大版を掲載させていただきます。

紀要の制作と発行には経費がかかりますが、「ロッシーニ研究に終わりなし！」とのフィリップ・ゴセット教授の言葉を肝に銘じ、日本唯一のオペラの研究紀要として更にレヴェルを上げていきたいと考えております。

なお、1996 年の創刊号から 20 年間主幹を務めた筆者の「老朽化」が急速に進行中です。2018 年の記念年に主幹を降り、後進にお任せしてリニューアルを果たしたいと考えておりますので、『ロッシニアーナ』の編集主幹をしても良い、という方は是非ご一報ください。

本日はこれにて失礼いたします。

（2016 年 2 月 15 日 水谷彰良）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ガゼッタ第 127 号◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 127 号をお届けします。

本号は、「2 月 29 日深夜 NHK-BS にて ROF《新聞》とロッシーニのドキュメンタリー放送！」、「パルマのレージョ劇場《なりゆき泥棒》に横前奈緒さん出演！」、「脇園彩さん、イタリアで大活躍！」、「フローレス 20 の公演日変更とニコライ《テンプル騎士》」をお届けします。

次回例会（2 月 28 日。講師：井内美香）のご案内はこちら→ http://societarossiniana.jp/meeting.html

なお、4 月 10 日例会（「ガエターノ・ドニゼッティのロマン派における喜歌劇」講師：高橋和恵）の案内文も併せてアップしました。

▼2 月 29 日深夜 NHK-BS にて ROF《新聞》とロッシーニのドキュメンタリー放送！▼

2 月 29 日（月）は、4 年に一度のロッシーニの誕生日。これに合わせて同日深夜（午前 0 時～3 時 50 分）、NHK-BS プレミアムシアターにて、ロッシーニ《新聞》全幕とロッシーニのドキュメンタリー「ペーザロの白鳥 ～ロッシーニ 再発見～」が放送されます。

《新聞》は大成功を収めた昨年 ROF 上演のライヴ、ドキュメンタリーは 2010 年ドイツ制作の映像で、バルチェッローナ、ディドナート、フローレス、ゼッダ先生のほか、ロッシーニ研究者フィリップ・ゴセットとセルジョ・ラーニも出演します。

前日 28 日は、午後に日本ロッシーニ協会例会、夜にピアノ伴奏「エルミオーネ」がありますので、深夜の放送を含めて「ロッシーニ祭」みたいな一日になります。深夜の映像は録画してご覧ください。

NHK-BS プレミアムシアターの放送詳細はこちら→ http://www4.nhk.or.jp/premium/

▼パルマのレージョ劇場《なりゆき泥棒》に横前奈緒さん出演！▼

当「ガゼッタ」第 121 号（12 月 25 日配信）に予告しましたパルマのレージョ劇場《なりゆき泥棒》、2 月 18～21 日の 4 回公演が行われました。ソリストをパルマのアッリーゴ・ボーイト音楽院の学生から選抜し、同音楽院オ

ーケストラが伴奏する形で正式なシーズン公演に組み入れての上演。なんと 4 回のうち 3 回（18、19、21 日）のヒロインを横前奈緒さんが務めました。ちなみに 20 日のパルメニオーネ役は宮本史利さんです。

横前奈緒さんは昭和音楽大学声楽科の 3 年次からオペラの歌唱法と表現法を金井紀子さんに学び、2012 年に同大学を首席で卒業すると同年パルマの A.ボーイト音楽院に入学しました。半年後には《リゴレット》ジルダのオーディションに合格して 2013 年 6 月同役でイタリア・デビュー、翌 2014 年 2 月には《結婚手形》ファンニでパルマ王立劇場デビューしたから驚きです（これについては 2014 年 3 月 5 日配信「ガゼッタ」第 56 号に書きました）。

留学して僅か 3 年、在学中に次々と主役デビューを果たすなんて日本ではありえません。才能ある新人を伸ばし、活かす土壌は日本にありませんのでこれからが大変ですが、次に記す脇園彩さんと併せて応援していきたいと考えております。

初日の『パルマ新聞』に出演者インタビューを含めた記事が載っています。↓
http://www.gazzettadiparma.it/scheda/eventi/334911/-L-occasione-fa-il-ladro.html

初日の観客が舞台写真と隠し撮り動画をアップしたブログもあります！　↓
http://piccoliviaggimusicali.blogspot.jp/2016/02/pvm-al-teatro-regio-di-parma-loccasione.html

これを見ると、最初に無声映画風のモノクロ映像が背後に映し出され、続いて舞台に現れた巨大な旅行鞄が開いて装置に変じたことが判ります。初日のライヴ映像がＴＶパルマで HD 放映されるそうなので、楽しみです。

▼脇園彩さん、イタリアで大活躍！▼

日本人のロッシーニ歌手として大活躍の脇園彩さんもまた、常に注目し続けるべき逸材です。今年は 1 月 31 日、2 月 2、4、7 日のヴェローナ、フィラルモーニコ劇場《ラ・チェネレントラ》にタイトルロールで出演。5 月にはボローニャ歌劇場《セビーリャの理髪師》でロジーナを演じます（カルロ・テナン指揮、フランチェスコ・ミケーリ演出）。これはダブルキャストによる 9 回公演で、脇園さんは初日から最終日まで 5 回に出演予定（5 月 5、7、10、12、15 日。伯爵：ルネ・バルベラ、フィガロ：ジュリアン・キムほか）。今年 28 歳ですから、この先もどんどん活躍していくことでしょう。8 月 14 日には ROF の演奏会「愛の二重唱」にも出演します。

5 月ボローニャ公演の詳細は、ボローニャ歌劇場のサイトからご覧ください ↓
http://www.comunalebologna.it/index.php?id=3
なお、1~2 月ヴェローナ《ラ・チェネレントラ》上演映像の一部が youtube でご覧いただけます。
https://www.youtube.com/watch?v=xzFlJKHp0mw
https://www.youtube.com/watch?v=9xopsNEAVSI
ロンド・フィナーレの一部は次のドキュメンタリーの最後に観ることができます。
https://www.youtube.com/watch?v=n7-RJvbHVwc

若くしてロッシーニ歌手を目指し、着実に成長を遂げる脇園さんはすでに「別格」の感がありますが、後進にとって大きな目標であると同時に励みにもなることでしょう。

▼フローレス 20 の公演日変更とニコライ《テンプル騎士》▼

ROF サイトをチェックしている人はとうにご存知と思いますが、当初フェスティヴァル最終日（8 月 20 日）と発表された「Florez 20」（フローレスの ROF デビュー20 周年記念コンサート）が 1 日前の 19 日に変更され、最終日が《バビロニアのチーロ》となりました。

期日変更の理由は不明ですが、もしかするとフローレスが 8 月 27 日と 30 日にザルツブルク音楽祭のニコライ作曲の歌劇《テンプル騎士（Il Templario）》演奏会形式に出演することと関係があるかもしれません。

《テンプル騎士》が初耳の人も多いでしょう。これは《ウィンザーの陽気な女房たち》で有名な作曲家オットー・ニコライが 1840 年トリーノで初演したイタリア・オペラで、数年後に忘れられ、2006 年に復元されたばかりのマイナー作品だから当然です。原作はウォルター・スコット『アイヴァンホー』。2008 年ケムニッツ音楽祭上演のライヴ盤が発売されており（CPO 7774342 CD2 枚組）、筆者はそれを聴きましたが、とくに名作とは思えません。

フローレス出演の ROF《湖の女》最終日が 8 月 17 日、「フローレス 20」を 1 日早く 19 日に終えて翌日ザルツブルク入りしても本番まで一週間……演奏会形式でも、初めて歌うオペラならタイトなスケジュールですね。

ちなみにフローレスはタイトルロールに当たるヴィルフレードを歌い、ヒロインのレベッカをジョイス・ディドナートが歌います。この二人が歌えば「名作の再発見」になるかも……

ともあれ、フローレス記念コンサートの期日変更から、意外なオペラの存在が浮上しました。

ザルツブルク音楽祭《テンプル騎士》の公演詳細はこちら　↓
http://www.salzburgerfestspiele.at/oper/il-templario-2016

本日はこれにて失礼いたします。

（2016 年 2 月 25 日　水谷彰良）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ガゼッタ第 128 号◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 128 号をお届けします。
本号は、「2 月例会の来場御礼と 4 月 10 日例会の告知」、「4 月 9 日、ロッシーニ＆モーツァルト《セヴィリアの理髪師の結婚》上演！」、「ドキュメンタリー『ペーザロの白鳥～ロッシーニ 再発見～』を見て」をお届けします。
なお、日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』第 36 号が出来上がり、2 月 25 日に会員の皆さまに発送しました。目次と内容については当ガゼッタ第 126 号（2 月 25 日配信）に紹介済みなので、ここには表紙のみ掲げておきます。

▼2 月例会の来場御礼と 4 月 10 日例会の告知▼

去る 2 月 28 日（日）、例会「巨匠アルベルト・ゼッダのロッシーニ教育（最近観たロッシーニ・オペラ上演についての報告付き）」（講師：井内美香）を実施し、44 名のご来場をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。この日は最初に、昨年の大阪フェスティバルホール《ランスへの旅》公演のリハーサル映像を用いてゼッダ先生がどんなメッセージを若い歌手たちに伝え、何を教えようとしたのか詳しく話されました。後半はゲントでの《アルミーダ》上演の模様が、資料映像を交えて報告されました。
次回例会は 4 月 10 日（日）、ドニゼッティ研究家・高橋和恵さんを講師にお迎えして行います。内容については当協会ホームページに掲載済みですが（http://societarossiniana.jp/meeting.html）、次に転記しておきます。

題目：ガエターノ・ドニゼッティのロマン派における喜歌劇
講師：高橋 和恵
日時：2016年4月10日（日）午後 1 時30分開始、午後4時半頃終了予定
会場：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム（下北沢駅より徒歩 4 分）
地図は http://kitazawatownhall.jp/map.html
会員とそのご家族は無料。その他の方は当日 1,000 円を頂戴します。
内容：
ガエターノ・ドニゼッティは、彼独自のロマン派的スタイルを確立した《アンナ・ボレーナ》（1830 年）の後、不変的な「愛」をテーマにした秀作、喜歌劇《愛の妙薬》（1832 年）を作曲します。それからは、叙情性とドラマ性が融合した《ルチーア》、イタリア・ロマン主義の頂点に立つ《ポリウート》など、ほとんどの作品が叙情悲劇となります。そして晩年になって、1843 年の 46 才の時、ドニゼッティは、彼の人生最後の喜歌劇となる《ドン・パスクワーレ》を作曲します。今回は、ドニゼッティの喜歌劇の中で、今もなお数多く上演され続けている《愛の妙薬》と《ドン・パスクワーレ》に焦点をあてて、ドニゼッティのイタリア・ロマン派におけるコミックや風刺など、彼の喜歌劇の特徴と真価までをお話します。新しいドニゼッティ情報もお楽しみに。
［講師・記］

▼4 月 9 日、ロッシーニ＆モーツァルト《セヴィリアの理髪師の結婚》上演！▼

《セヴィリアの理髪師の結婚》という題名を見て目が点になりましたが、チラシを読んで氷解しました。要するに、ボーマルシェが続編ものとして書いた戯曲に基づく二つのオペラ（ロッシーニ《セビーリャの理髪師》とモーツァルト《フィガロの結婚》）を一個の作品に再構成しようとする試みで、次のように説明されています――「本作は『セヴィリアの理髪師(フィガロ)の結婚』と題し、『セヴィリアの理髪師』と『フィガロの結婚』の両作品を回想劇として大胆に再構成し、一つの新しい作品を作り上げることで、これまで成し得なかった両作品の同時上演を実現します」。

公演名：セヴィリアの理髪師の結婚（全 2 幕。音楽：ロッシーニ／モーツァルト）
期日：2016 年 4 月 9 日（土）13:00～／17:30～（2 回公演）
会場：JT アートホール アフィニス
全席自由　前売／4,500 円　当日／5,000 円　学生／3,500 円
翻案・演出：田尾下 哲／家田 淳
出演：フィガロ：村松恒矢、スザンヌ：今野沙知恵（13:00）／田川聡美（17:30）、伯爵：糸賀修平（両公演）／町英和（両公演）、ロジーナ（伯爵夫人）：澤村翔子、ケルビーノ：青木エマ（13:00）／加賀ひとみ（17:30）、バルトロ：山下浩司、マルチェリーナ：林よう子、バジリオ：森雅史（両公演）／升島唯博（両公演）、ピアノ演奏：高田絢子

タイプの異なる二つのオペラをどう合成するのか、音楽はどこを使うのか、といったことは上演を見なければ判りません。でも、果たしてうまくいくのでしょうか？　詳細はこちらをご覧ください→ http://noteweb.jp/figaro/

▼ドキュメンタリー『ペーザロの白鳥～ロッシーニ 再発見～』を見て▼

ロッシーニの誕生日、2 月 29 日の深夜に NHK-BS プレミアムシアターで放送されたロッシーニ《新聞》全幕とドキュメンタリー『ペーザロの白鳥～ロッシーニ 再発見～』(2010 年ドイツ) をご覧になった方も多いでしょう。筆者は録画し、翌朝視聴しましたが、始まってすぐ、〈食べ、愛し、歌い、消化する「人生」という名の喜歌劇。シャンパンの泡のように消えてしまう。この 4 幕を楽しまずに終える人は愚か者だ〉との言葉がロッシーニに扮した役者によって語られ、驚きました。なぜならこれは、19 世紀の小説家がでっちあげた「偽り」のロッシーニの言葉なのです！

その後は概ね次の流れで進行しました―「現代のロックスターにも等しかったロッシーニ人気」～「ロッシーニの音楽の特色と魅力（逸話と手紙の引用含む）」～「《セビーリャの理髪師》について」～「ペーザロの風土」～「食通」～「ロッシーニの生涯とその時代」～「引退と《老いの過ち》」。

ディレクターと構成作家のコンセプトに深みを欠き、凝りすぎた映像処理にもややゲンナリ。本当に伝えるべきロッシーニの魅力と功績、彼の人間像と生きた時代が見えてきません。食通＝快楽主義者という捉え方も表面的ですね。ドイツ・ロッシーニ協会のレート・ミュラーが協力していれば、違った展開になったことでしょう。

とはいえ《湖の女》に出演したフローレス、ディドナート、バルチェッローナ、そしてゴセット、ゼッダ、ラーニら音楽学者のコメントは貴重ですし、役者によるスタンダール、ハイネ、ヘーゲル、ヴァーグナーの言葉にもちゃんと典拠があります（映像には示されませんが、筆者はすべての言葉の出元が判ります）。ともあれこれをきっかけに、2018 年の没後 150 周年に向けてもっと優れたドキュメンタリーや TV 番組が作られることを祈るばかりです。

本日はこれにて失礼いたします。

（2016 年 3 月 5 日 水谷彰良）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ガゼッタ第 129 号◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 129 号をお届けします。

本号は、「2016 年 ROF アッカデーミア・ロッシニアーナに 43 か国 282 人が応募！」、「WOWOW がメトロポリタン歌劇場《湖の女》を日本語字幕付きで放送！」、「2 月に札幌で《絹のはしご》が上演されていた！」、「ROF 第 4 回《ランスへの旅》デザイン・コンクール開催！」を手短にお届けします。

次回例会（4 月 10 日。講師：高橋和恵）のご案内はこちら→ http://societarossiniana.jp/meeting.html

なお、協会ホームページに次の原稿をアップしましたのでご覧ください。

「ロッシーニとその時代」の頁の「その他の論考」に掲載済みの「《セビーリャの理髪師》レッスンの場の差し替えアリア」を削除し、「《セビーリャの理髪師》レッスンの場の差し替えアリア：1860 年までの差し替え例と、楽譜複製（1）ゾンタークが挿入した《ロードの変奏付きアリア》」、「楽譜複製（2）カラドーリ夫人が挿入した《バグダッドの女奴隷》のアリア」、「楽譜複製（3）パーエル《ゴンドレッタのブロンド娘による変奏曲》」、「楽譜複製（4）フンメル《ティロル風アリア、変奏付き》のアルボーニ・ヴァージョン」を新規掲載しました（3 月 8 日）。

日本ロッシーニ協会紀要第 36 号（2016 年 2 月 20 日発行）の画像と目次を掲載しました（3 月 9 日）。

ロッシーニ図像学の頁に「シュヴァリエ作のメダイヨンに基づくリトグラフ（1865 年）」、「シュヴァリエ作のメダイヨンに基づく木版画（『新画報』1866 年）」、「ロッシーニの写真名刺（ブラクエ撮影、1864 年頃）」の PDF を新規掲載しました（3 月 10 日）。

▼2016 年 ROF アッカデーミア・ロッシニアーナに 43 か国 282 人が応募！▼

当「ガゼッタ」第 122 号（1 月 5 日配信）でお知らせしました 2016 年度 ROF アッカデーミア・ロッシニアーナの応募が締め切られ、3 月 6 日、ROF サイトにて「オーディションに 43 か国 282 人から応募があった」と報告されました。ペーザロでのオーディションは 3 月 14～18 日の 5 日間ですから、現在その真っ最中です。

ROF サイトの報告はこちら。→ http://www.rossinioperafestival.it/?IDC=530&ID=716 英語
http://www.rossinioperafestival.it/?lang=ita&IDC=530&ID=716 イタリア語

今年はどんな逸材が現れるのか…それを 8 月の《ランスへの旅》で確かめるのも、ロッシーニ・オペラ・フェスティヴァルの楽しみですね。筆者が同行講師を務める郵船トラベル夏の音楽祭ツアーの概要については、次号でお知らせできる見込みです。ROF に終わりなし！

▼WOWOW がメトロポリタン歌劇場《湖の女》を日本語字幕付きで放送！▼

去る 3 月 12 日（土）、WOWOW で MET ライブビューイングのロッシーニ《湖の女》が放送されました（放送

時の題名は《湖上の美人》)。これは昨年（2015 年）3 月 14 日のライヴで、12 月に発売された DVD と BD については「ガゼッタ」第 119 号（12 月 5 日配信）に記したのでここでは繰り返しません。
市販ソフトに日本語字幕がないので、WOWOW での字幕付き放送は大変貴重です。友人知人で WOWOW に加入している人は、録画を見せてもらってください。再放送の日程は不明ですが、いずれ再放送されるでしょう。

▼2 月に札幌で《絹のはしご》が上演されていた！▼

2 月 24 日、札幌でロッシーニ《絹のはしご》が上演されていました。すでに終了した公演ですが、ここに記しておきます。

公演名：ヤング・ホッカイドウ・フィルハーモニー　オペラ公演「絹のはしご」
期日：2 月 24 日（水）19:00 開演
会場：札幌コンサートホール Kitara 小ホール
出演：指揮／フリーデリケ・キーンレ　管弦楽／ヤング・ホッカイドウ・フィルハーモニー
ソプラノ／ラウラ・アロンソ・パディン、服部 麻実　テノール／大川 信之、岡崎 正治
バリトン／中原 聡章　バス／加藤 史幸　演出／中津 邦仁

演出家の名前があるので舞台上演と思いますが、小ホールでのオケの演奏会ならセミステージかも知れませんね。ちなみにヤング・ホッカイドウ・フィルハーモニー（YHP）は、2012 年に北海道教育大学の学生を主体に、今回の指揮者・北海道教育大学専任講師フリーデリケ・キーンレ（シュトゥットガルト生まれの女性指揮者）が創設した管弦楽団とのことです。事前に知っていれば宣伝できましたが、後の祭りです…
公演の詳細はこちら → http://www.kitara-sapporo.or.jp/event/dsp.php?num=1188
チラシの表面と裏面はこちら→ http://www.kitara-sapporo.or.jp/upimg/20160113113032-1.pdf
http://www.kitara-sapporo.or.jp/upimg/20160113113032-2.pdf

▼ROF 第 4 回《ランスへの旅》デザイン・コンクール開催！▼

2 月 19 日、ROF サイトに「IV edizione del Concorso Il tuo Viaggio.」の公募が掲載されました。毎年「ガゼッタ」で紹介していますので皆さんご存知と思いますが、ROF が毎年行う若者公演《ランスへの旅》のプログラム・デザインのコンクールで今年は第 4 回になります。
コンクールの告知はこちら→ http://www.rossinioperafestival.it/?IDC=530&ID=714　イタリア語
http://www.rossinioperafestival.it/?lang=eng&IDC=530&ID=714　英語版
締め切りは 6 月 20 日。応募要項はこちらをご覧ください。→ http://www.rossinioperafestival.it/?IDC=476

本日はこれにて失礼いたします。

（2016 年 3 月 15 日　水谷彰良）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ガゼッタ第 130 号◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 130 号をお届けします。
本号は、「ROF 友の会の優先予約始まる！」、「ロッシーニ新譜：〈ロッシーニ風のスペイン〉」、「初演 200 周年にアダムスファミリーにされた《セビーリャの理髪師》！」をお届けします。
次回例会（4 月 10 日。講師：高橋和恵）のご案内はこちら→ http://societarossiniana.jp/meeting.html

▼ROF 友の会の優先予約始まる！▼

今年夏の ROF（ロッシーニ・オペラ・フェスティヴァル）、友の会（Amici e Sostenitori）のメンバー優先申し込みが 3 月 23 日に開始されました。友の会メンバーには直接連絡が来ていますのでメルマガの告知を省略しましたが、お申し込みはお早めに！
なお、一般申し込みは 4 月 27 日から 6 月 10 日まで。こちらは郵便、ファクス、E メールによる受付で、電話による受付は 7 月 1 日から 22 日までとなります。一般申し込みの詳細は、次の ROF サイトをご覧ください。
英語版→ http://www.rossinioperafestival.it/?lang=eng&IDC=148
イタリア語版→ http://www.rossinioperafestival.it/?lang=ita&IDC=148

▼ロッシーニ新譜：〈ロッシーニ風のスペイン〉▼

◎エスパーニャ・アッラ・ロッシーニ（Espana alla Rossini）

（〈グラナダにて〉〈愛の神よ、降りてきて〉〈ニッツァ〉〈スペインのカンツォネッタ〉〈散歩〉〈アラゴネーゼ〉〈ソルツィコ〉〈スペイン風のティラーナ〉〈誘い〉〈セビーリャの恋人たち〉ほか。全 16 曲）
アンナ・トンナ(Ms),エミリオ・ゴンザレス・サンツ(pf) ほか（助演）
録音：2014 年 6 月セゴビア　Itinerant Records ic021 (CD)

「ロッシーニ風のスペイン」と題されたロッシーニ室内声楽曲の CD がスペインで発売され、さっそく取り寄せました。これは実質的にアメリカ人メッゾソプラノのアンナ・トンナ（Anna Tonna）によるロッシーニ歌曲集で、1 曲の二重唱にテノールの助演が関与し、最後の 1 曲（四重唱）のみ別グループが演奏しています。

この CD の特色は、歌曲の幾つかにカスタネット奏者を交えて「スペイン風」にアレンジした点にあります。そもそもロッシーニは〈スペインのカンツォネッタ〉〈スペイン風のティラーナ〉〈ボレロ〉などスペイン音楽を模した歌曲のほか、〈セビーリャの恋人たち〉と題した二重唱曲も作曲しています。全部にカスタネットを入れるのではなく 2 曲だけで節度がありますが、その分「看板に偽りあり」との気もします。

ピアノが 1880 年頃に作られたロンドンのブロードウッド＆サンズ社製なので、音色が現代ピアノとは歴然と違います。教会で録音され、エコー過多なのが難点です。

スペインのマイナーレーベルとあってタワーレコードや HMV での扱いがなく、Amazon のみ注文可能です。

▼初演 200 周年にアダムスファミリーにされた《セビーリャの理髪師》！▼

今年はロッシーニの《セビーリャの理髪師》初演 200 周年とあって、6 月の日生劇場を含めて世界中で記念公演が行われます。中でも注目されたのが、2 月 11～21 日に 8 回行われた初演地ローマにおける上演です（コスタンツィ劇場＝ローマ歌劇場）。

演出：ダヴィデ・リヴェルモレ、ドナート・レンゼッティ指揮ローマ歌劇場

ダブルキャストの初日組は、ロジーナ：キアーラ・アマル、アルマヴィーヴァ伯爵：エドガルド・ロチャ、フィガロ：フロリアン・センペイ、バジーリオ：イルデブランド・ダルカンジェロ、バルトロ：シモーネ・デル・サヴィオほか。

若く優秀なロッシーニ歌手を揃えたので大成功と思いきや、初日にブーの嵐が吹き荒れたと報じられました。原因は演出家リヴェルモレにあるようです。彼はロッシーニがこのオペラと笑いを通じて「革命後のヨーロッパの悪魔祓いをした」と捉えたらしいのですが、その舞台はアメリカのホラー・コメディ映画「アダムスファミリー」のパロディにしか見えません…RAI 5 による上演ライヴ映像が観られます（下記）。

登場人物はみな蘇った死者のようなメイクと衣裳。筆者の大好きなアマルちゃんもグロテスクなブサイク娘にされています。映像の仕掛けも含め、お化け屋敷みたいな設定や笑いのネタに不満を持つ観客は、歌手が立派に歌っても演出への不満を叫ばずにはいられません…これじゃ歌手たちがかわいそうです。第 2 幕フィナーレで首のない人間（フランス革命のギロチンの犠牲者たち）が踊り、ネズミが舞台を横切って暗転すると盛大なブーが巻き起こり、これに抗してブラヴォーの声も飛びます。そういえば、200 年前の 2 月 20 日の初演もオペラ史に残る大失敗でしたね…その再現を狙ったわけではないでしょうけど…

RAI 5 が収録した初日のライヴ映像がユーチューブで観られますのでご覧ください。フィガロのカヴァティーナはいただけませんが、アマルちゃんの見事な歌唱は日本の若い歌手の手本になるでしょう。

全幕のライヴ映像はこちら→ https://www.youtube.com/watch?v=CQt00O1NHZ0

公演の詳細はこちら→ http://www.operaroma.it/spettacoli/opera-barbiere-2016/

本日はこれにて失礼いたします。なお、筆者が同行講師を務める郵船トラベルツアー「イタリア夏の音楽祭めぐり、ペーザロ・ロッシーニ音楽祭＆ヴェローナ音楽祭 9 日間／10 日間」の日程が決まりました。今年は 8 月 10 日に日本を発ち、ヴェローナで《カルメン》とバッティストーニ指揮《トゥーランドット》、ペーザロで《湖の女》《イタリアのトルコ人》《バビロニアのチーロ》の 3 演目を鑑賞します（18 日帰国と 19 日帰国の 2 コースあり）。美食の都パルマ観光、ラヴェンナ宿泊を含む旅の詳細は、次号に書かせていただきます。

（2016 年 3 月 25 日　水谷彰良）